

主な検討課題と論点

1. 免許取得前に学ぶべき事項の整理と具体的な教育内容の見直し

- ・ 3年課程（国家試験受験資格要件として）の学ぶべき内容は何か
- ・ 教育年限にとらわれない看護師教育で学ぶべき内容は何か

2. 看護師養成機関内における教育方法の開発・活用

- ・ 1で出された教育内容について、講義・演習・実習の効果的な組み合わせによる教育の方法は何か
- ・ 効果的な講義・演習方法はどのようなものか
- ・ 開発した講義・演習方法をどのように活用するか

3. 効果的な臨地実習のあり方

- ・ 演習でできることと実習でしかできないことは何か
- ・ 病院等の実習指導者と教員の役割分担と連携はどうあるべきか
- ・ 国民の実習への理解等を含めた実習機会の拡大の方策はどのようなものか

4. 保健師教育、助産師教育のあり方

- ・ より高い専門性が発揮できるような教育内容は何か

看護教育の内容と方法に関する検討会

今後の進め方（案）

【第2回・第3回】

教育年限にとられない看護師教育で学ぶべき内容について

【第4回】

第2・3回で出された教育内容を実施するための方法について

【第5回】

看護師国家試験受験資格要件として教育に反映すべきものについて

【第6回】

保健師教育、助産師教育で学ぶべき内容について

【第7回】

第6回で出された教育内容を実施するための方法について

【第8回】

中間まとめ

第1回検討会における委員の主な意見

1. 免許取得前に学ぶべき事項の整理と具体的な教育内容の見直し

- 必要な知識が膨大になる中で、知識の教授だけでなく知識を統合するような思考の訓練が必要である。
- 人間性のベースとなる倫理性、あるいは判断力、対人関係能力の育成につながるような教育が必要である。
- 健康の保持・増進に関わる看護、保健の分野を含めた教育を基礎教育で行うべきではないか。
- 療養上の世話や臨機応変に判断する力を身につけることが重要で、そのために「人体の構造と機能」や「疾病の成り立ちと回復の促進」といった専門基礎分野の教育が必要である。
- 医療はチームで行うので、広く横の連携をうまく取り合うコミュニケーション能力が必要である。
- 在宅医療現場で、医師もケアマネージャーも多忙な中、看護職の役割は非常に大きい。地域資源の活用や福祉関係者など多様な職種間でのコミュニケーション・連携能力を基礎教育の中で学んでほしい。
- 臨地実習において、看護過程の展開だけでなく、現場の楽しさがわかるような体験ができれば、看護師として働き続けられるのではないか。
- 最新の医療技術・手技の習得、緊急時の対処能力や高度なフィジカルアセスメント能力を基礎教育で行うのは無理がある。しかし、フィジカルアセスメントなどの基礎的な能力が基礎教育において必要である。

- 研究結果を臨床に活かす力、臨床現場での問題を研究的に捉え解決する力、エビデンスに基づいた個別的な看護実践能力を3年間で教育するには限界がある。
- カリキュラム改正にあたり統合する部分は必要だが、現在の基礎教育の中で応用力まで身につけるのは非常に難しい。
- 若い看護師には、臨機応変に対応することや自分で判断して行動することが欠けている。こういった能力は経験に伴うものであり、基礎教育での臨地実習の時間が少なくなっていることが原因ではないか。
- どのような能力が求められ、どれくらいのレベルを求めているのかが大事である。そのためには、医師やコメディカルの方など様々な立場の方からヒアリングしていけばよいのではないか。
- 教育内容で考えると中身が多いので、コンピテンシー、アウトカムベースで考える方法もある。
- 免許を取った人（新人看護職員）に何が必要かは、免許取得後の教育内容と連動している。新人看護職員研修の内容とある程度共通像のようなイメージがあるとわかりやすいのではないか。
- 看護師教育の中に、保健師教育と助産師教育のベースになるものが含まれると考えると、看護師の基礎教育で共通となる部分はどこまでかを検討することが必要である。
- 専門職は、10年、20年と長い期間で育つという視点で、最初のスタート時にどのような能力を持っているべきかという議論にしたほうがよいのではないか。

2. 看護師養成機関内における教育方法の開発・活用

- 知識を学び、学内演習で判断する能力を身につける。そして実習で看護のダイナミックさを体験し、また知識に戻る。この繰り返しが大事である。

3. 効果的な臨地実習のあり方

4. 保健師教育、助産師教育のあり方

- 保健師の場合は、理解・知ることにとどまらず、実践力の確保のため教育内容が必要である。

新人看護職員
研修到達目標

深さ

国家試験
受験資格

高齢化

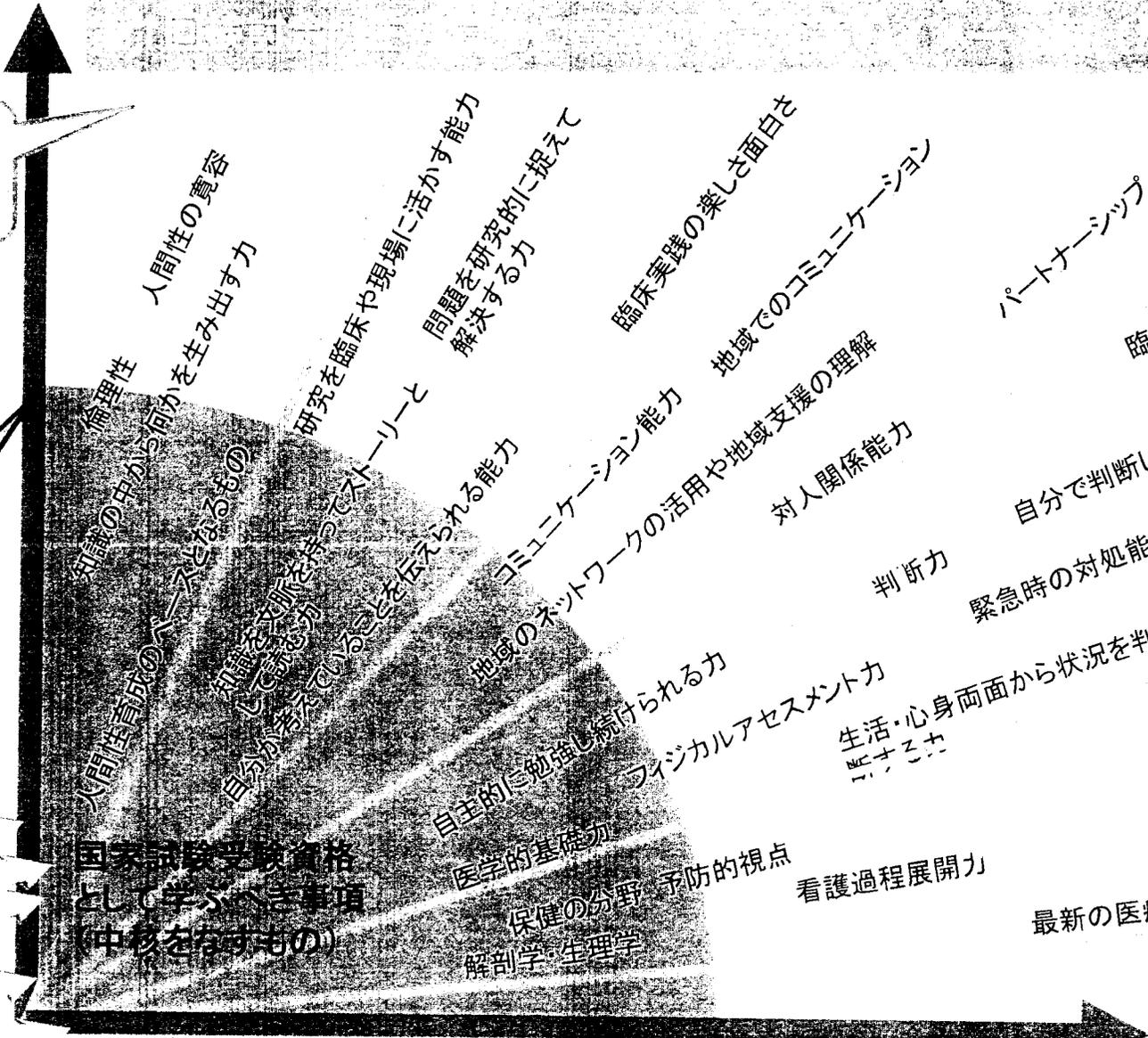
在宅医療の
推進

医療提供の
多様化

少子化

医療の高度化
医療への意識の高まり
看護の役割の増大
チーム医療の推進

広さ



○看護師等養成所の運営に関する指導要領について(抜粋)

資料5

(平一三・一・五 健政発 五) (最終改正 平二一・二・一九)

別表3 看護師教育の基本的考え方、留意点等

教育の基本的考え方

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。
- 2) 人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解する能力を養う。
- 3) 人々の多様な価値観を認識し専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できるとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。
- 4) 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 5) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など、健康や障害の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- 6) 保健・医療・福祉制度を他職種との役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整するための基礎的能力を養う。

<p>1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。</p>	<p>2) 人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解する能力を養う。</p>	<p>3) 人々の多様な価値観を認識し専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できるとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・知識の中から何かを生み出す力 ・倫理性 ・人間性育成のベースとなるもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・心身両面から状況を判断する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の中から何かを生み出す力 ・自分が考えていることを伝えられる能力 ・コミュニケーション能力 ・対人関係能力 ・最新の医療技術 ・人間性育成のベースとなるもの ・人間性 ・倫理性 ・自主的に勉強し続けられる力 ・知識を文脈を持ってストーリーとして読む力

看護師教育の基本的考え方と
第1回検討会における委員の主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・医学的基礎力 ・フィジカルアセスメント力 ・病態生理学 ・看護過程展開力 ・判断力 ・エビデンスに基づいた個別的な看護の提供 ・研究を臨床や現場に活かす能力 ・問題を研究的に捉えて解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのコミュニケーション ・保健の分野 予防的視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・判断力 ・緊急時の対処能力 ・地域のネットワークの活用や地域支援の理解 ・パートナーシップ
<p>4) 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。</p>	<p>5) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など、健康や障害の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。</p>	<p>6) 保健・医療・福祉制度を他職種との役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整するための基礎的能力を養う。</p>

<p>その他</p>	<p>その他</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実践の楽しさ面白さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変な対応ができる能力 		

* 項目1)~6): 別表3「看護師等養成所の運営に関する指導要領」より

看護師教育と新人看護職員研修の
到達目標イメージ図

資料7

